シンポジウム

頼山陽と『日本外史』

開催趣旨

頼山陽の『日本外史』が 19 世紀～ 20 世紀前半に広く普及したことは言を俟たないが、同書についてさまざまな評価がなされてきたことも事実である。本年は『日本外史』の脱稿（文政 9 年 1826）から 200 年に当たるので、これを記念して頼山陽と『日本外史』を対象としたシンポジウムを企画した。日本学・中国学・詩文・思想史・漢文教育など諸分野の研究者による報告とディスカッションを通して議論を深めたい。

日時 2026年 12月 5日（土）
9：30 ～ 17：00

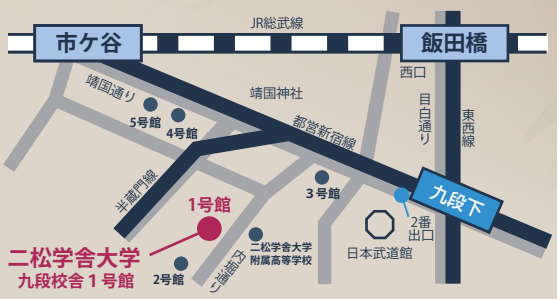
会場 二松学舎大学九段 1 号館 202 教室

主催 二松学舎大学東アジア学術総合研究所
日本漢学研究センター

入場無料・予約不要

- 地下鉄 メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線「九段下」駅下車、2番出口より徒歩8分
- JR「市ケ谷」「飯田橋」駅下車、徒歩15分

※ 会場には駐車場がありません。お車でのご来場はご遠慮ください。



お問い合わせ　二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢学研究センター

プログラム

午前の部　9:30 ～ 12:20　日本学の視点から

（各 30 分　報告 20 ～ 25 分　質疑応答 5 ～ 10 分）

- 長尾直茂氏「頼山陽と木崎好尚」（上智大学文学部・教授）
- 濱野靖一郎氏「頼山陽の学術の伝播　―拙修斎叢書とその周辺」（島根県立大学地域政策学部・教授）
- 合山林太郎氏「詩吟・剣舞の歴史と頼山陽の詩」（慶應義塾大学文学部・教授）
- 武田祐樹氏「後世の『日本外史』評価：光吉元次郎から川田甕江へ」（二松学舎大学文学部・非常勤講師）
- 町泉寿郎「『日本外史』の版権問題をめぐって」（二松学舎大学文学部・教授）

午後の部　13:30 ～ 16:10　中国学・日中交流の視点から

- 牧角悦子氏「頼山陽と『日本楽府』　―詩と史と楽府の合体―」（二松学舎大学文学部・教授）
- 劉欣佳氏「頼山陽の評点と文章作法論」（早稲田大学教育総合科学学術院・助手）
- 王宝平氏「清末における『日本外史』の翻刻について」（二松学舎大学文学部・教授）
- 郭海燕氏「『日本外史』にみる対外認識　――元寇・朝鮮交渉を中心に」（日本大学理工学部・教授）
- 佐川繭子氏「明治期における『日本外史』の出版について　――教育・学習の観点から――」

（國學院大學文学部・准教授）

ディスカッション　16:20 ～ 17:00

（コメンテーター：頼山陽史跡資料館・伊藤大輔氏）